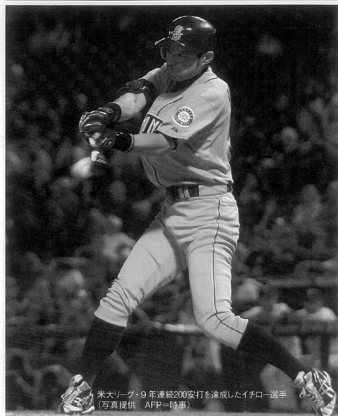


9年連続200安打を達成した

イチローの 人生信條



米大リーグ・9年連続200安打を達成したイチロー選手
(写真提供 AFP・時事)



料理評論家 山本益博

やまもとまさひろ——昭和23年東京府生まれ。47年早稲田大学卒業。卒論として書いた「桂文業の世界が「きよなら名人芸 桂文業の世界」として出版される。57年に「東京・味のグランプリ200」(講談社)を出版して以来、日本で初めての「料理評論家」として活躍中。著書は最新刊の「船—美・職・技」(グラフィック社)ほか、「イチローに学ぶ 失敗と挑戦」(講談社)など多数。

2009年9月14日、一人の日本人選手がメジャーリーグの記録を塗り替えた。その人とは、もちろんイチロー選手だ。この9年間、ファンともスポーツジャーナリストとも異なる視点でイチロー選手を見つけてきた料理評論家の山本益博氏に、そこから垣間見るイチロー選手の人生信條についてお話しいただいた。

フィルドの 完璧主義者

私とイチロー選手は、本格的な出会いが9年前に遡る。それ以前も日本球界を代表する選手ということはもちろん認識していたが、メジャーリーグに渡ってすぐに大活躍、いきなりオールスターの一員に選ばれ、NHKが彼の前半戦の活躍ぶりを振り返る特別番組を放送していた。番組中、本人へのインタビューもあって、私は興味深く見ていたが、すべてが質問が終わり、「出て行きかけたその時」と部屋を出て行ったことがあった。くるりと振り返って彼はこう言ったのだ。

「やっていることはすべて意味があるので、よく見て下さい」
「なほすべて見せてもらおうじゃないか」と、以来、可能な限り彼の試合を観戦し、「イチローウォーキング」を始め今年で九シーズンが終わった。

今季は開幕前に買ったBC(ワールド・オブ・ベースボール・クラシック)で「二日世界一」に輝き、またメジャーリーグ史上初の9年連続200安打という偉業を成し遂げた一年でもあった。その活躍ぶりを見て、改めて「イチロー選手は職人である」という思いを強くした。

私は一般的に料理の評論家と呼ばれているが、料理それ自体を味わうことよりも、職人、それも完璧主義の職人仕事に強・惹かれるのだ。職人仕事を私なりに定義すると、「昨日もきょうも明日も同じ仕事を繰り返しながら、しかし繰り返して同じ仕事をしない人」
そしてその職人にもいろいろな人がいて、ものすごく腕がいい人がいる。腕の波が激しかったり、腕が上手なお客さんにはとくに腕を尽くすが、こいつは分かっているかと思われ、それ以外の仕事しかししない人もある。

しかし、完璧主義の職人は、百点満点などこの世に存在しないことを重々分りながら、その百点に一步でも近づかぬに日々コツコツと精進を重ねていく。

これまで様々な職人仕事を見てきながら、いま野球界で職人といえる人物はイチロー選手の右に出る者はいない。彼は完璧を自指すために須く努力し、三割バッターであることに決して満足していない。おそらく四割に達しても満足しないだろう。十割打席に立つたら一本のヒットを打ちたい。そういう「フィルドの完璧主義者」なのである。

一定であることが 自分の支え

イチロー選手は、「普段の自分がいることが僕の支え」といっている。ヒットを量産するから好調、何打席もヒットが出ないから不調といえるのは、自分のパッチングはきまぬ人の代わり。それはあくまでも他人の価値であって、たとえ二、三試合タービッドで終わっても、パッチングの「感覚」を養ってれば配することは、ない、と言いつつ切っている。

よくないのは、何打席もヒットが出ないこと。次の打席にまで持ち込むこと、そのために、いつも平然と、冷静でいられる。「普段の自分」を保ってまかなければならぬのだよ。

9年間イチロー選手の動きを逐一見て、まず感ずるのは、すべての所作が計たように同じであることだ。例は、試合開始で守備につく時、ベンチから飛び出してきた彼は必ず十九歩から二十歩目にフィールドインの白線と越え、その上で自分の守備位置をライム方向へ走ると、必ず四、五歩目で走りを経て、十五歩から十八歩目で定位置につく。

入って構えるまでの一連のシチュエーションはあまりにも有名であり、スポーツライターであり、かつて新体操でオリンピックに出場した山崎浩子さんは、新聞のコラムに興味深いことを書いていた。
「実は私も現役時代、出番が近づくとドレーニングウェアに下ウレオターの右足から脱ぐという本音が、観客の方からたまたまアローに入る時結構だった。またアローに入る時

も決まってる足から、これはジャンプスの類ではなく、いつも同じ行動をするので、自分のリズムを作り出していたのである」
この話からも、オリンピックやメジャーリーグといふ世界最高峰の舞台で一流の選手が確を解る時、最も大切なものは、「いつも自分のである」ということ。おそらくどの選手も自分分の約束事があるのだ。そしてその順を踏むことで、「いつも自分である」とセルフコントロールしている。

イチロー選手に関していえば、それはグラウンドを離れてからも徹底している。密着選手に話題をシフトして試合がある時は食事は、必ず奥さんがつくった「カレーライス」と決めている。他球場で試合がある時は「チキンズ」だそう。
これは何もしないイチロー選手がただカレーやそばが好きだからではない(もちろん好きではある)と思うのが、曰く「試合中何かが異常を感じた時、食事を口にするのを徹底しているのだ」。